

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2015.02.No210

2月号

目次

「建築士による家庭科住教育出張講座」報告	1
ヘリテージマネージャー専門職育成講座報告	4
青年・女性の窓	6
[No.70 HOKKAIDO 建築士会 女性委員会]	
支部だより	7
[紋別・空知]	
information	8

URL <http://www.h-ab.com/>

北海道委託業務

地域における住教育実践推進業務

「建築士による家庭科住教育出張講座」報告

女性委員会 副委員長 工 藤 美智子 (札幌支部)



平成25年・26年度の継続業務が皆様のご協力により無事終了いたしました。平成25年度分はNo.198号で報告済みですので、ここでは26年度報告と今後の活動についてお伝えします。

〈平成26年度 開催報告〉

5月末に登別青嶺高等学校（2年生4クラス）からスタートし、石狩翔陽（2年生選択教科2クラス）、旭川東栄（1年生2クラス）、平取（3年生1クラス）、共和（2年生1クラス）、旭川北（1年生1クラス）、函館中部（定時制4年生1クラス）、函館白百合学園（3年生2クラス）の8高等学校を10月末までに終えました。また、8月1日に釧路市生涯学習センター、8月8日に北見市芸術文化センターにおいて、建築士・教諭向けセミナーを開催いたしました。講座の様子は、次頁以降の体験報告でお伝えしますので、ここでは開催校教諭と授業参観にいらした近隣校教諭からの感想などを紹介いたします。

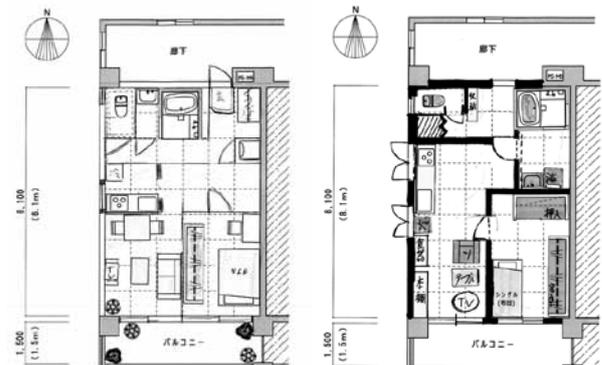
〈家庭科教諭アンケートより（抜粋）〉

◆今回モデル校に選定していただき、住教育授業が充実しました。◆自信を持って正しい知識・技術を伝えられるように小・中・高それぞれの年代や課題に応じたアドバイスをいただきたいです。◆このような講座や指導補助が、もっと広く行われていくと良いと思います。本当に良い機会だったので、周りの家庭科教諭にも薦めたいです。◆将来建築士になりたい生徒もいますので、実際の仕事についてレクチャーいただけると生徒の参考になります。◆作成シートの販売があれば利用したいです。今回の出張講座を参考にして授業を組み立ててみようと思います。◆事前来校・授業内容の確認などきめ細かい対応に感謝しています。◆もう少し時間があれば完成度が上がったと思いますので、今後説明～実習～発表・まとめと、4時間で授業構成をしてみます。

〈業務を終えて考えたこと、これからのこと〉

教諭によって受け止め方は様々ですが、この出張講座をきっかけに、住居分野のカリキュラムをどのようにしようかと、具体的に考えはじめた方が多い印象です。今までプリント配布や教科書を読んで終わりだった授業が自ら考え工夫する授業へと変わり内容が充実することで、基礎知識を身につけ、自分の暮らしに関心を持って卒業する生徒が少しでも増えることがこの取組の成果につながっていきます。道内には約280の高等学校があります。今後はより地域密着で出張講座を開催できるように、建築士向けセミナー（講師養成）も充実させる予定です。

ここで出会った生徒とお客様として再会したり、将来机を並べる同僚や建築士会の仲間になるかもしれません。出張講座は、北海道建築士会として取り組んでいきますので、建築士向けセミナーの案内や近隣校での授業参観案内が届きましたら「次の世代を育てる」というお気持ちで、老若男女かかわらずぜひご参加ください。また、ブロック・支部単位で取り組み希望があれば事務局までお問い合わせください。この事業をきっかけに、建築士会を地域の方に知っていただき、活動の輪を広げて行きましょう。



〈生徒作品〉

3校の出張講座を振り返って

室蘭支部 吉田 幸恵

5月に登別青嶺高校、10月に函館中部高校（定時制）と函館白百合学園の出張講座を行いました。



■登別青嶺高校は、シャイな子が多かったのですが、将来の自分の姿に夢をもち、毎日を過ごしている。そんな印象を持ちました。完成した作品をみると、寝室にこだわり「ゆっくり過ごしたい」「お料理が好きなのでお友達を呼んで鍋パーティをしたい」など楽しい一人暮らしをイメージ出来たようでした。



■函館中部高校（定時制）は、家庭科の先生と相談し、事前に「3つのマンションから1つ選び、何歳で何をしているか」までを授業で進めておいていただきました。様々な事情で定時制に通学している生徒達で、将来の自分の姿に夢を描ける子とそうでない子がいたと思いますが、完成した作品では、「綺麗な星を見たいからなるべく高い所に住みたい」「洋服が好きだからクローゼットの沢山ある部屋」「川や公園が近いから」など、感性豊かで自分をきちんと持っている子が多いと思いました。



■函館白百合学園は、女子校で規律を守り、上品な印象でしたが、実際には明るく、楽しく同級生とお話しながらインテリアの話などで盛り上がり課題に取り組んでいました。完成した作品は、女子らしく、収納やキッチンのレイアウト、家具の配置、好きなインテリアなど細部まで考えられていた作品が多かったです。

3校それぞれ特色があり、初対面の子達とのコミュニケーションをとる難しさを感じましたが、どの生徒さんも素直で純粹に取り組んでくれました。講座受講後のアンケートでは、「間取りを考えるのはとても難しかったが楽しかった」「一人暮らしのことを考えたことがなかったのでよい機会になった」「専門家の話を聞いてよかった」など、好意的に受け止めてくれた感想が多く、間取り作成の時に考えてほしいポイントを伝える際の表現の仕方や内容について、講座の度に試行錯誤を繰り返していますが、このような好意的なアンケート結果でとても達成感があります。自分は何が好きで、どんな生活、どんな住環境で過ごしたいのか、そして、過大表現になりますが、生き方そのものを考える良い機会になったのではと思います。高校の家庭科で住分野を取り上げるのは、時間的制限もあり、専門的で難しいという声を先生方からお聞きしますが、衣食住どれも健康で自分らしく生活していくために必要なスキルであると思います。来年以降も講座を通じ、高校生に伝えていきたいです。そして建築・住宅に興味をもち将来の建築士が多く誕生してくれることを望みます。

平取高校に参加して

札幌支部 柳山美保子

出身校ではないのですが、平取出身として是非、地元の高校を担当したいと思いました。

若いころから暮らす・住まうことに関心を持ってもらいたいという思いで始まった住教育出張講座。高校生の元気ではつらつとしたおしゃべりや屈託のない行動が、こちらまで英気を養えるような、いや、もらえるような勢いで楽しい講座でした。

思えば自身も小学5年のころ、ノートに「わたしのいえ」と題して、フリーハンドで家の間取りを作っていました。室名は玄関、茶の間、台所、風呂場などは分かっていたけど、脱衣室は「服を脱ぐところ」と書いてありました。

その当時の実家は茅葺屋根で和室が4室もつながる広い平屋建てだったので、憧れはただただ2階建ての家だったと思います。

まさかこのような仕事に就くなど思いもしませんでした。きつと小さいながらも興味・関心があったことは確かです。

どこで気付くか、そのきっかけは様々ですが、このような講座がきっかけとなって、暮らすことは食べることと同じくらい大切なんだと思ってほしいです。そして一人でも優秀な建築士が育ってくれたら、言うことありません。

生徒たちの「難しかったけど楽しかった」「また受けたい」などの感想を聞くと、もっともっと他の高校生たちにも広めたいと思いました。

札幌市内の高校はクラスが多く、なかなか時間割が難しいと聞いていますが、何回にも分けてでもそこを何とかやりくりしてもらい、是非この講座を受けさせていただきたいと強く感じております。

共和高校に参加して

小樽支部 近藤 真人

今回私は、岩内町の共和高校に参加して参りました。

岩内も過疎化が進んでいるのか生徒の数も少なく、近い将来廃校になるとの話も聞こえてくる学校でしたが、生徒たちが、自分たちの将来の生活の拠点となる「住居」作りに真剣に取り組む姿にとっても強い印象を受けました。岩内町から首都圏や大都市に一人住まいし、部屋の環境を自分たちで考えている様子が伝わり、大変感激したことを覚えています。またいつも授業している先生からの講義ではなく、初めて出会う「建築士」からのアドバイスはとても生徒に刺激になったかと思います。

今後、彼ら彼女らが成長し、まず「自分で住居を借りる」そして「家庭を持つ」と歩む人生の中で、少しでも今回の講座が役に立って、ゾーニング・動線等を思い出してくれたら、その時が初めてこの住教育が実った時と考えます。今後も参加する機会があれば、多くの生徒に触れ、住環境整備と将来の自分のイメージを成型させるお手伝いができる様にしていきたいと思っています。

最近の生徒は（共和高校だけかもしれないませんが）、おとなしい生徒が多く見受けられました。自分の高校時代とは比べものにならない位でした。おとなしいながらも自分の意見を述べ授業に向かう姿勢がとてもすばらしく思えた住教育セミナーでした。

この企画は、女性委員会だけにとどまらず、全ての支部・委員会で取り入れて、建築士会の知名度アップにつなぎ、なおかつ将来建築士になりたいと思う生徒をはぐくんで行く意味でも是非続けて行きたいと思っています。

北見セミナーに参加して

北見支部 米倉 直子

8月8日、北見市内にて、女性委員会の方が中心となって活動されている【家庭科住教育講座】にオホーツク管内の高校教師4名の方と共に参加しました。

今回は実際に授業を受ける生徒の立場として講座を体験。内容は、自分の一人暮らしの住まいを考えろということでした。学生にとって、これから近い将来体験するだろう一人暮らし。強い憧れを持ち、心を強く惹きつける題材だと感じました。製作途中には、委員の方からメジャーや身振りをを使って、



人体の寸法、通路・出入口の幅等、アドバイスをいただきます。基本的な寸法を知ることで、より現実味のある間取製作が可能となります。また、それぞれの住まいの特徴、こだわりを発表しあい、生活パターン、好みが人によって多種多様なことも理解することができます。

学生の頃、部屋の模様替えが好きでよくしていた～マンションや一戸建てのチラシを見るのが好きだった～など、テーブル内で談笑しながら製作。最後まで楽しく受講することができました。

この活動が今後、オホーツク管内においても、広く普及することを期待しています。そして、実際の高校での授業を見学したいと思いました。女性委員会の方々には北見市においてセミナーを開催していただいたことを大変感謝しております。この場をお借りして、お礼申し上げます。

釧路セミナーに参加して

釧路支部 金子ゆかり

8月1日、釧路市生涯学習センターにて、セミナーが開催されました。

この日は釧路にしては暑くそして、残念な日でもありました。今回、開催されるセミナーを楽しみにしていた会員が家族の病気等で欠席を余儀なくされる事態が相次ぎ、建築士の出席者はなんと、僅かに4名となってしまいました。また、周辺地域から参加された家庭科教育に携わる教諭の参加も4名と同数になり、広い教室の中で少し寂しい雰囲気です。セミナーは行われました。

しかし、参加して学んだことは沢山ありました。例えば、我々建築を仕事にしているものではあたりまえになっている寸法の感覚が、家庭科教諭では身近ではないこと。出されている課題についてのイメージの膨らませ方にも、大きな差異があること。また、図面に取り掛かることが出来る人と全く出来ない人と、個人差も大きいということは、事前に話を聞いて理解していたつもりでも、目の当たりにしなければ、実感できないことが良くわかりました。

また、参加している教諭達に対してアドバイスをしてあげてほしいと言われても、参加している建築士たちも自信が持てず、なかなか自分から声を掛けることができない状況。自らも焦りを感じ、適切なアドバイスなどできないまま時間が経過してしまい、プランが完成に至らない教諭を手助けできないことに申し訳なさを感じました。

今回は自分達の至らなさを思い知る良い機会になった訳ですが、今後も機会があれば勉強を積んで家庭科教育に貢献できればと感じています。

平成26年ヘリテージマネージャー専門職育成講座を終えて ヘリテージマネージャーの三つの役割

ヘリテージマネージャー特別委員会委員長 山内 一男 (函館支部)



ヘリテージマネージャー専門職育成講座が終了、地域に歴史的資産活用の専門建築士が誕生した。新しいまちづくりは新しい建物による開発だけではなく、歴史的建物を活かしたまちづくりも開発の一つです。地域資産の活用が地域・まちの特色を際立てていくと考えます。地域資産を見極め、個性あるまちづくりに資産を活かす、ヘリテージマネージャーの目指す役割の一つです。

そのためには建築基準法第3条第1項第3号に規定する「保存建築物」の運用について、国交省住宅局建築指導課長からの助言を利用しなければなりません。その内容は、建築審査会からあらかじめ包括的な了承を得る同意基準をつくれれば適用除外にしましょうという内容です。具体的には以下のとおり

「建築審査会に代わる地方公共団体に設ける歴史的建築物の保存活用や構造安全性に詳しい者により構成される委員会において個別の歴史的建築物について同意基準に適合することが認められた場合にあっては、建築審査会の個別の審査を経ずに、建築審査会の同意があったものとみなすことができる」と。

助言の中にある委員会にもヘリテージマネージャーの役割が見えます。委員になり専門的知識でアドバイスすることが二つ目です。

10月23日福島ビックパレットで全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会総会が開催された。

47都道府県の内32道府県からの参加、今年度にマネージャー2,648名になると報告されました。さらに、27年には建築登録文化財に指定された建物が10,000軒になると報告され、その多くにヘリテージマネージャーが係わりました。

地域の人たちにとって、生活の証をはっきりさせる建物ほど愛着を抱きます。親から子供に記憶が引き継がれていく建物ほど生きている実感を抱きます。地域やまちの愛着・記憶を繋いでいる建物を見つけ、後世に引き継ぐこと。登録文化財として人々にまちの誇りを伝えることも三つ目の役割と考えます。

これらの役割は1期生28名では担えるものではありません。建築士の多くが係わり、役割を分担し、まちづくりに活動しなければなりません。地域貢献する公益的な建築士の姿です。地域に必ずヘリテージマネージャーがいて欲しいのです。

27年度は5月から講座が始まります。昨年度より講座開催回数を少なくし、地方からの参加者の負担を軽くするように考えています。地方での講座開催を検討したのですが、地方の参加者が地方での講座に参加する大変さを考えると、札幌が好ましいのではということになりました。数多くの参加をお願い致します。また、1期生のスキルアップの講座・地方開催も検討中です。

私の街で ヘリテージマネージャーをめざして

早川 陽子 (小樽支部)



私が「ヘリテージマネージャー」という存在を知ったのは、数年前の全国女性建築士連絡協議会の分科会での場でした。直訳すると「文化財保全活用推進員」というお堅い名称ですが、実際の活動は地域の歴史的な建物を中心にまちの歴史や文化を住民に柔らかに伝え、まちの財産として守り、育み、伝えてゆくもので活動されている方たちの誇りをもった姿が印象に残っています。

私の住む小樽は「屋根の無い博物館」と称されるほど、明治から昭和にかけて創られた港、運河、鉄道、建築など多くの歴史的遺産が現存しており、それらが日常生活と共にあるという魅力を私なりに伝えたいと思っていましたので、この講座には迷うことなく受講しました。

講義は、何とんでも講師陣が素晴らしかったです。毎回興味深く面白い内容で資料や教材の作り方からもそれが伝わってきました。特に印象に残ったのはグループ実習(全6グループ)です。

◇指定文化財修理現場での実習

実存する文化財の修復方法を考え、まとめ、発表します。それぞれの専門分野の視点を尊重しながらまとめてゆく大切さを学びました。

◇「私が見つけた登録文化財」

実際に候補となる建物を現地調査・実測、文献調査等をして申請書を作成します。私の所属するBグループ

は幸いにも建物の所有者の全面協力のもと、心おきなく実測に臨むことが出来ましたことに感謝しています。

講座最終日は、発表があり、各グループの趣向を凝らした個性あるプレゼンテーションにさすがプロだなあ～と思いました。半年間で全60時間の講座は厳しかったですが、事務局の皆さまと仲間を支えられ、修了証を手にすることが出来ました。



旧竹田邸の前で所有者Yさんと調査メンバーBグループの皆さま、ありがとうございました。

念願のヘリテージマネージャー養成講座を受講して

吉田 幸恵 (室蘭支部)



昨年から室蘭の歴史的建物を調査、保存、活用しようという市民団体に活動しています。装飾性豊かで歴史ある建築や市民に親しまれてきた建物が、老朽化や耐震性の問題から壊されて、街の姿が変わっていくことに喪失感を感じていました。ヘリテージマネージャーという資格は数年前から、本州の方で開催されていることは知っていましたが、北海道でも今年度開催されるということを知り、大変嬉しさいっぱいに参加しました。講座では、阪神大震災で多くの歴史的建造物を失った兵庫県から誕生したヘリテージマネージャー制度の内容や文化財保護法・建築基準法などの法規的な兼ね合い、耐震技術、修復法、まちづくりへの活用など多岐に渡り歴史的建造物を文化財として保存活用する手法などを学びました。講座の中ではグループ実習があり、私のグループではニセコ町の駅前に残る「でんぶん工場」を選びました。このでんぶん工場は、ニセコ町がまだ狩太という名前だった頃に建てられた工場で、函樽鉄道の開通に伴い、周辺地域の農産物の集積拠となり栄えた場所に建っています。この工場を調査しにニセコ町へ皆で行ったり、北海道の澱粉づくりの歴史・澱粉製造工程・ニセコ町の歴史、建物に残されていたマークの謎などを手分けして調べ、所見としてまとめました。所見をどのような切り口で書き、適切な言葉でまとめていくか・・・とても悩みました。文才の無さ、語彙力の無さを痛感しつつ何とか書き上げ、最後の発表では、リーダーの方はじめ、数名の方

達が素晴らしい資料としてまとめてくださいました。でんぶん工場を調査することで、今まで知らなかった澱粉の製造工程や室蘭にも澱粉工場があったこと、ニセコの歴史に触れることが出来、知る喜びを感じました。この実習を通じて、「歴史的建造物を登録文化財にするということ」は、一人の力ではとてもやり遂げられない事と認識し、ともに活動してくれる仲間の必要性を感じます。そして歴史的な建物を愛す道内各地で活躍される建築士や学芸員、職人さんの方々との出会いがあったことの喜びがあります。様々な経験をされているので色んな視点や知識を持っていらして、とても刺激を受け、また勉強になりました。このご縁をいつまでも継続できるように大切にしていきたいです。

歴史的な建物を保存活用するのは、市民活動や今回の講座を受講して、簡単なことでは無いと。まずは地域の人びとに歴史的な建物を知ってもらう、そこから始めていきます。そして保存活用していこう！そのためには何をすべきか皆で考え、行動していく。そんな動きに持っていきたい。

その動きがまちづくりにつながっていく・・・

地元らしさが残る、地元に誇りと愛着を持てるそんな街にできる力を「歴史的な建物を残すこと」は持っているとは私は信じています。60時間すべて受講はかなわなかったのですが、仮免ですが、来年も参加できる喜びと、また新たな出会いがあると期待しています。

ヘリテージマネージャーの役割について

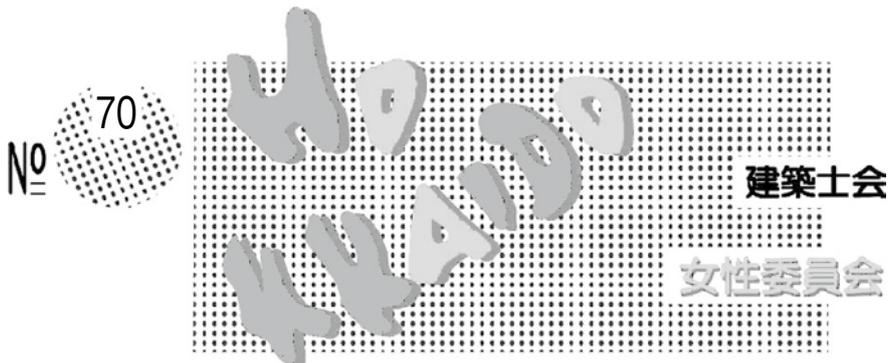
山田 大樹 (十勝支部)



にじます料理専門店「松久園」

私の住む芽室町には築97年の建物でにじます料理店を営業する「松久園」があります。「松久園」は平成18年に「芽室遺産」の指定を受けた町民から大切にされている貴重な建物です。めむろ建築・まちづくり研究会は国土交通省の委託を受け「松久園」を初めとする芽室町の歴史的建築物の調査を進めています。調査に着手した頃、「ヘリテージ・マネジメント専門職育成講座」の案内が届きました。「ヘリテージマネージャー」

とは歴史的建築物の保全活用に係る専門家のことです。普段、建築の仕事をしていても歴史的建築物の知識はなく、地元にも歴史的建築物の調査方法や改修方法を知る技術者がいませんでした。そのようなことから、委託調査を進める上で役に立つと思い、受講することにしました。講習は札幌開催なので通うのが大変でしたが、幸いにも芽室町からは私を含めて3名が受講したので、車に乗り合わせてみんなで楽しく通うことができました。講習会は歴史的建築物専門の大学教授や行政職員、NPOなど様々な活動をしている方たちから歴史的建築物と建築基準法の関係、景観やまちづくりとの関係、歴史的建築物の修復方法、構造の仕組み、耐震補強の考え方などを学ぶことができました。また室内の講義だけでなく、現地で歴史的建築物の内部や耐震補強工事現場を見学することができ、より実践的な講習を受けることができました。講習を通して歴史的建築物についての多くのことを学ぶことができましたが、一番の収穫は歴史的建築物に関わる仲間がたくさんできたことです。道内には数多くの歴史的建築物があるため、地元だけでなく全道各地のヘリテージマネージャーが協力して活動することが必要と考えます。講習は終わりましたが、これからが活動に向けてのスタートです。北海道の歴史的資産の活用に向けて、いろんな活動に取り組みたいと思います。



建築士会

女性委員会

**全国大会ふくしま大会
～交流セッション①報告～**

札幌支部 東 道尾(連合会女性
委員会委員)

全国大会初めての試みとして、青年・女性・まちづくりの連合会3実践委員会が合同で、テーマ「防災・減災・まちづくり」と題して各委員会からの報告とパネルディスカッションが行われた。女性委員会からは、(公社)福島県建築士会女性委員長の鈴木深雪さんより「考えよう！明日を担う子供達のための住まいづくり」～放射線対策住宅を考える～というテーマの報告があった。

震災から3年あまりが経過したが、いまだに放射線の影響を心配しながら暮らしている。子供達が多くの時間を費やす住環境の改善をすることで、少しでもリスクを減らせることはできないかと、建築士として取り組めることを模索していた。まず、放射線の基礎から学び、遮蔽する放射線を「ガンマ線」に特定した。次に普段から実務で使われている建材や遮蔽効果を謳っている建材を集めて遮蔽効果のデータを探った。



その結果を参考に、新築と改修の実寸の建物モデルを、会員の敷

地に建てて計測した結果、ある程度の遮蔽効果がある数値が得られた。当日の参加者には、この過程を編集した冊子が配布された。また、放射能のリスクを気にしている方の参考に活用してほしいと、報告を締めくくった。



除染作業中の旗～車中より撮影

『福島県の被災地を訪ねて』

全国大会終了後、郡山在住の会員S氏の運転で、郡山市→飯館村→南相馬市まで出かけた。車中では線量計の数値に目が離せず、飯館村に入ると急に数値が上がり、道路沿いに「除染作業中」と書かれた派手な色の旗が、まるで祭りの幟(ノボリ)のように林立しており、異様な風景に映った。南相馬市小高区は、かなり除染作業が進み、やっと市街地の除染作業が始まった郡山市内より線量が低い。しかし、人の姿は見られず、海岸線を走る陸前浜街道周辺は、撤去された瓦礫の山で廃墟の様相。さらに浪江町に入ると、無人の街並みが続き、幹線道路は一部侵入禁止の信号が点滅している。同行していただいた3人の何気ない会話のなかに、放射線という言葉がなくなる限り、この災害と事故の復興にはならないと実感した。

**秋晴れの日
そばで舌鼓みと施設見学**

北見支部 加藤 幸恵

11月8日、道東Bブロックでは、美幌そば打ち試食会、津別認定こども園と旧瀧口邸を見学しました。

当日は、会員8名と子供5名の参加者で、午前中は美幌そば同好会の方の指導をいただき、そば打ちに挑戦しました。皆、なかなか思うように打てず、切るときには、きしめんの様な太さ(私だけかも?)になってしまいました。

そばは、日本のソウルフードです。シンプルな材料で奥深い日本古来の食文化を子どもたちと共に学び体験し、味わったひとときでした。

そばでお腹を満たした後は、津別認定こども園を見学しました。湾曲した流線型の集成材を使った屋根構造は、さすが「木材の町」津別町ならではの印象の施設で、利用する方々も角のない柔らかな交流がこの場所で生まれますようにと願うところです。

最後に昭和元年建築の古民家、旧瀧口邸を見学しました。昭和の雰囲気安堵感を与えてくれる建物です。町の有志が保存活動をし、この建物の活用方法を検討中です。これまでにそば打ちやキルト展等が開催されました。

このような地域の動きをきっかけに、これから古い建物を保全する動きがこの北海道にも高まっていてくれることを強く思いました。



旧瀧口邸前にて

紋別支部

全道大会開催のまち紹介

支部長
高野 昭一



第40回北海道建築士会全道大会は、平成27年9月に紋別市において開催されます。

紋別市には、東洋一の鴻之舞金山があり、作曲家 宮川 泰氏が幼少を過ごした鴻之舞の広野を走る鉄道を見て「銀色の道」が作曲されました。今は昔となりましたが、最近では、子ども達が砂金掘りを楽しんでいます。

産業は、オホーツク海の豊かな恵みを活かした水産や酪農を中心

とした農業と林業、これらの素材を活かした漁業・農林畜産物の製造加工などが基幹産業となっています。大会日には、建設中の日本一の木質バイオマス発電所の完成間近を見ることができます。

また、世界初の流水を海中見学できる氷海展望タワーや流水をメインにした流水科学館、流水砕氷船ガリンコ号Ⅱなどが迎えてくれるオホーツク海の中核都市です。

皆さんが訪れる9月は、ガリンコ号Ⅱに乗ってかたい釣りができますし、流水も触れ、クリオネも見られ、毛ガニ、ズワイガニも満腹に食べられるまちです。

なお、一年を通して冷涼の気候ですから、温かい服装でいらしてください。ゆるキャラ「紋太」と鴻之舞の金を餌にしている「モンベモン」もおもてなしをさせていただきます。



空知支部 (南幌分会)

とある分会の事務局長のつぶやき

南幌分会事務局長
小西 直哉



地方支部の会員減少は、大きな問題ではないでしょうか。空知支部も高齢化や職離れが続き減少の一途を辿っております。当分会は、正会員6名、賛助会員6名の会員12名で活動しております。正会員数は横這なので、今後、会員の高齢化が進み活動が先細りになることが危惧される場所です。そんな少ない人数の中ですが、会員相互の交流と少しでも地域貢献できるようにと考えた取り組みを紹介させていただきます。

当分会では、毎年、座るところが無いバス停に当分会で製作した

ベンチ17基を設置したり、人通りが多いところに少しでも景観が良くなればと思い、プランターの設置をしたりしております。特にベンチに座っているお年寄りや女子生徒を見ると、ささやかながら役立っているのかなと嬉しく思い、新たにベンチを製作したり、既存ベンチやプランターの補修・ペンキ塗り作業にも精が出るところです。また、近年は、毎年行われている「たくみ祭り」という南幌町子ども会が主催のイベントにも参加しております。会場では、たけとんぼやコマ回しなど主に昔ながらの遊びを世代間交流として行っており、その中で「大工さんに挑戦しよう」という当分会の体験ブースを設け、来場された方々に

差し金で墨出してのこぎりで木材を切ったり、カンナかけを行ったりと体験提供をしております。特にカンナ掛けは子供達だけに留まらず、大人の方々からも大変好評でした。私自身もカンナ掛けの経験は中学生以来で、とても楽しい経験にもなり、当会員の方々も懐かしむように夢中になっておりました。体験した子供達の中には将来大工さんになりたいなど建築のことにも興味を持ったようで、将来の会員候補はもとより、将来の建築を担う人材が育つきっかけになればと思います。今後も少数ではありますが、会員相互の交流を深め知恵を出しながら、地域貢献と将来の建築について努めてまいります。

平成27年 専攻建築士新規認定・登録更新申請受付のご案内

？ 専攻建築士になるには・・・(新規認定の要件)

- ・「CPD」を行っており、過去1年間(平成26年1月～12月)に12単位を取得している
 - ・建築士資格取得後の専攻領域の実務経歴年数が5年以上ある
 - ・「当該領域の責任ある立場での実務実績」(要第三者による証明)が3件以上ある
- ※構造設計・法令専攻建築士は、一級建築士を要件としております。

専攻建築士更新認定申請について

既に、対象のみなさま(平成22年11月認定までの方)へは、更新申請についての案内を送付しております。該当の方で届いていない方がいらっしゃいましたら本部事務局までご連絡ください。(011-251-6076)

受付期間 従来申請～2月27日(当日消印有効) WEB申請(更新申請のみ)～2月28日

詳細については、北海道建築士会HPをご覧ください。

道士会の動き

道本部の主な会議報告

◆第1回まちづくり委員会小委員会

〈開催日〉1月22日(木)

〈議案〉

- 1) 平成27年事業計画について
- 2) 景観整備機構について

◆第1回ヘリテージマネージャー特別委員会

〈開催日〉1月23日(金)

〈議案〉

- 1) 委員の変更について
- 2) 平成27年予算について
- 3) 平成27年育成講座カリキュラムについて

◆第1回青年委員会

〈開催日〉1月24日(土)

〈議案〉

- 1) 平成26年事業報告・決算報告、平成27年事業計画・予算について
- 2) 全道青年委員会連絡会議について
- 3) 青年建築士の集い(後志)について
- 4) 全道大会青年サミット・分科会(紋別大会)について

道本部の主な行事予定(2月)

■ 7日(土) 第1回女性委員会

■ 28日(土) 第1回被災地応急支援特別委員会

■ 3月27日(金)

平成27年一般社団法人北海道建築士会定時総会
(詳細については、次号にてお知らせします。)

関係機関等会議出席状況(2月)

■ 4日(水) 北海道赤レンガ建築賞表彰式 高野会長出席

■ 10日(火) 北海道公共建築設計懇談会 高野会長出席

■ 18日(水) 建設系CPD協議会運営委員会
(東京) 高野会長出席

■ 19日(木) 北海道・東北ブロック会議(仙台)
高野会長出席

■ 19日(木) B I S 認定制度運営委員会 鈴木専務理事出席

編集後記

今月号に、生活の基本の「住」を題材にした、女性委員会による「出張講座」の報告がありました。

誰もが子供の頃に「自分の住みたい家」を描いたりブロックで作ったりした記憶があるのではないのでしょうか？

「家」という身近な建築物を考えることで、小さい頃に持っていた建物への興味を思い起こし、ひとりでも多くの子供たちが建築士を目指し、将来私たちの仲間となって共に活動出来たらいいなあと思っています。 情報委員会 高松 徹

CPD認定プログラム(1月認定)

◆混構造住宅構造設計セミナー

〈日程及び会場〉2月5日(木) 他3会場
14:30~17:00
旭川地場産業振興センター(旭川市)
〈単位数〉3単位
〈問合せ先〉(一社)北海道建築技術協会
TEL 011-251-2794

◆平成26年度小樽開発建設部施設整備課工事安全連絡協議会

〈日程及び会場〉2月6日(金)
13:30~15:30
小樽開発建設部(小樽市)
〈単位数〉2単位
〈問合せ先〉小樽開発建設部施設整備課
TEL 0134-23-5185

◆第25回旭川建築作品発表会

〈日程及び会場〉2月12日(木)
18:00~20:00
旭川市神楽公民館(旭川市)
〈単位数〉2単位
〈問合せ先〉旭川市都市建築部公共建築課
TEL 0166-25-8546

◆高齢者等住宅改善講演会

〈日程及び会場〉2月14日(土)
10:00~12:00
旭川市障害者福祉センター(旭川市)
〈単位数〉2単位

◆高齢者等住宅改善実務者研修会

〈日程及び会場〉2月14日(土)
13:00~17:00
旭川市障害者福祉センター(旭川市)
〈単位数〉4単位
〈問合せ先〉旭川市都市建築部建築指導課
TEL 0166-25-8597

◆建設工事に伴う労働災害・地下埋没物事故防止講習会

〈日程及び会場〉2月25日(水)
13:30~17:00
北海道建設会館(札幌市)
〈単位数〉3単位
〈問合せ先〉(一社)日本建設業連合会北海道支部
TEL 011-261-6245

平成27年度

(一社)北海道建築士会会員作品の募集

みなさんの手がけた建築作品を広くアピールしてみませんか。応募作品のすべては、本会ホームページに掲載します。また、その中から4点程度を選考し9月発刊「北海道建築士No.217」に掲載します。多くの会員の応募をお待ちしています。

※応募要項など詳細は、3月発刊「北海道建築士No.211」に掲載します。また北海道建築士会HP(<http://www.h-ab.com/>)では、第1回~3回の作品も見ることができます。

情報委員会委員長/神田 光英
副委員長/斎藤 勝哉・早川 陽子・森 勝利
委員/高松 徹・熊谷 智・柳山美保子
鈴木 雅人

北海道建築士 No.210号

印刷 平成27年1月/発行 平成27年2月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
大五ビル
電話 (011)251-6076番
URL <http://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎
〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
電話 (011)811-7151番